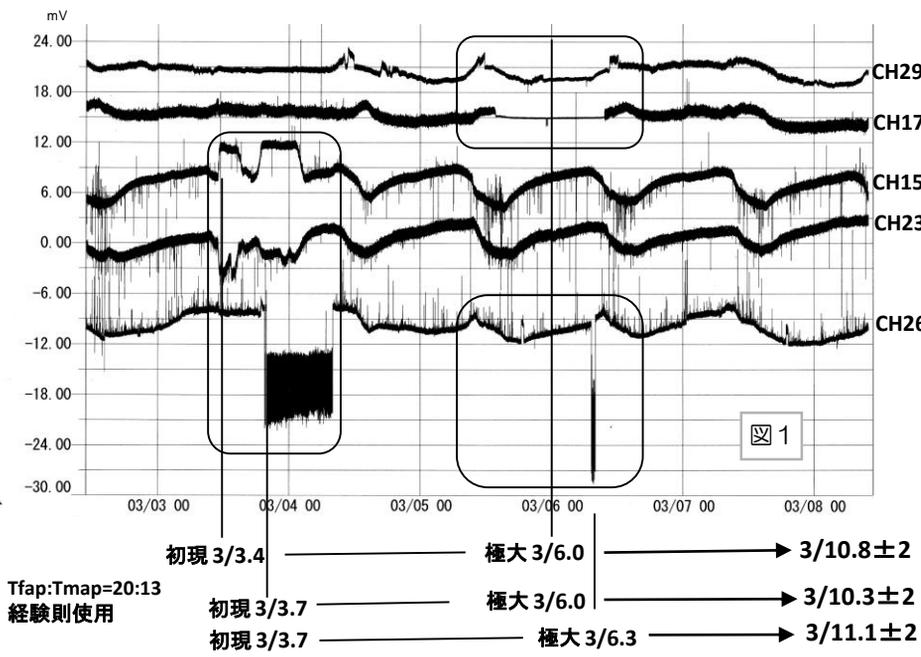


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。  
※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

**No1778 長期継続前兆 直前に出現した別形態認識特異前兆変動の変動変化から  
対応地震 = 3/10 ± 2 3/10 or 3/11 の可能性考えやすい (最大誤差3/13まで) 発生の可能性に修正**

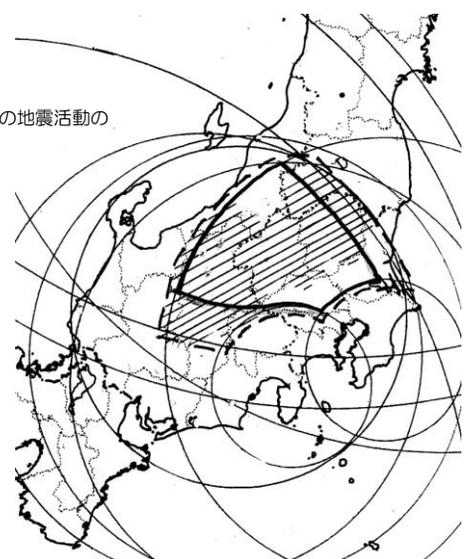


◆3/3からハヶ岳の複数観測装置に特異変動出現が観測されています。ハヶ岳の複数観測装置の特異変動は3/6午後以降は認められません。図1のとおり3/6の00時を中心に基線の振動がなくなる糸状特異変動が認められます。糸状特異は顕著特異変動よりも変動レベルが上であることから、3/6の00時、つまり**3/6.0が極大**である可能性が高いと認識されます。  
◆この場合の初現は、3/3の11時頃からのCH15・CH23の同期BF特異並びにCH26の顕著特異変動が考えられ、**3/3.4が初現**である可能性が考えられます。またはCH26の顕著特異変動の初現の**3/3.7が初現**の可能性。仮にCH26の3/3.7が初現で、3/6.3の向下き短時間の変動値の大きな特異を極大とした場合でも、3/11発生の可能性が示唆されます。**従って、3/10 or 3/11発生の可能性が考えやすい状況です。**

◆今後さらに3/10前後に初現または極大が出現しない限りは、Stage-30からの推定発生時期=3/7±4の範囲内である、上の別形態特異変動から推定される3/10±2で、対応地震が発生する可能性が示唆されます。  
◆さらに前兆変動が観測された場合は再考し、続報させていただきます。 ※3/3からの特異変動については、E-mail or FAXで配信の観測情報では既に報告して参りました。

火山近傍領域での地震活動の可能性が高い

図2



- 推定領域：図2の点線領域内=大枠推定領域  
図2の太線領域内=可能性が考えやすい  
図2の斜線領域=火山近傍で考えやすい推定領域
- 推定規模：M8.0±0.3  
M7.7～M8.0の可能性考えやすい  
または複合地震  
複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km  
程度となる様な複合地震活動の可能性  
(例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等)
- 推定時期：3月10日±2 (最大誤差3月10日±3)  
3月10日 or 11日の可能性考えやすい  
※3/10±3 に初現または極大が出現して、次のステージに移行しない場合に限る。次ステージに移行の場合または上記時期に対応地震発生無き場合は再考し続報します

- 推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前9時±2 or 午後6時±3  
(複合地震では当てはまらない)